

地理的分野 年間指導計画表・評価規準

教科書ページ	項目 (◎ 学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
			評価規準の具体例につながる指導のポイント ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
第3部 日本のさまざまな地域			
第2章 日本の地域的特色			
154 155	6 日本の人口 ◎日本の人口分布や人口構成は、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 日本の人口分布の特色と、人口が集中する地域と少ない地域の課題を理解できる。 (2) 増え続けてきた日本の人口が減少に転じ、少子高齢化が進んでいる理由を考察できる。	①日本の人口は三大都市圏に集中していることを理解させ、人口減少により、地域社会の維持が困難になっている地域が増えていることを理解させる。 ②子育てと仕事の両立が難しいことを背景に、出生率が低下する一方、食生活の改善や医療技術の進歩などにより高齢化が進んでいることを考察させる。
156 157	7 日本の資源・エネルギーと電力 ◎日本では、資源を有効に活用するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	(1) 日本の資源やエネルギーの自給率が低いことを理解し、資源・エネルギーの安定確保のためにどのような取り組みが行われているか理解できる。 (2) 日本の発電量の内訳が変化してきた理由とその課題を考察できる。	①日本は資源やエネルギーの自給率が低いため、資源のリサイクルや消費電力の少ない家電製品の開発、電気自動車の普及など、省エネルギーの取り組みを行っていることを理解させる。 ②日本では、原子力発電の割合が減少し、火力発電に依存するようになった理由と、火力発電に依存することから生じる課題について考察させ、表現させる。
158 159	8 日本の農業・林業・漁業とその変化 ◎日本の農業・林業・漁業には、どのような特色や課題があるのだろうか。	(1) 日本では、狭い耕地を有効に利用し、地域によりさまざまな農業が行われていることを理解できる。 (2) 日本の農業・林業・漁業に共通する課題について考察できる。	①日本では稲作や畑作のほかに、地形や気候に合わせた果樹の栽培が行われているなど、地域によりさまざまな農業が行われていることを理解させる。 ②輸入農産物の増加や後継者不足と高齢化など、日本の農業・林業・漁業に共通する課題について考察させ、表現させる。
160 161	9 日本の工業とその変化 ◎日本の工業にはどのような特色があり、工場の立地はどのように変化してきたのだろうか。	(1) 日本の工業地域は、臨海部から内陸部や大都市周辺に変化してきていることを理解できる。 (2) 企業の海外移転に伴う産業の空洞化や、安い工業製品の輸入の増加など、日本の工業の課題を考察できる。	①日本の工業は、軽工業から重化学工業、先端技術産業へと発展してきたことを理解させる。 ①日本の工業地域の分布と移り変わりを工業の変化と関連させて理解させる。 ②日本の企業の海外移転による産業の空洞化や、アジア諸国からの安い工業製品の輸入の増加など、日本の工業の課題を考察させる。
162 163	10 日本の商業・サービス業 ◎日本の産業の中心である商業やサービス業には、どのような特色や変化がみられるのだろうか。	(1) 日本の経済の発展に伴い、産業別人口に占める第3次産業の割合が高くなっていることを理解できる。 (2) パソコンやインターネットの普及により、日本の商業やサービス業がどのように変化しているか考察できる。	①日本の経済発展や都市部への人口集中、生活スタイルの変化などに伴い、商業やサービス業など、第3次産業が発展してきたことを理解させる。 ②商業ではコンビニエンスストアや通信販売などが、サービス業では情報や医療・福祉サービスを提供する業種などが拡大していることを考察させる。
164 165	11 日本の交通網・通信網 ◎交通網や通信網が発達したことで、日本と世界や国内の地域間の結び付きはどのように変化したのだろうか。	(1) 輸送手段や交通網の発達により、世界と日本の結び付きが深まり、人々の生活が変化していることを理解できる。 (2) 交通網や通信網の発達に伴う、利便性の向上と問題点について考察できる。	①航空路線の拡大に伴って出入国者が増加し、国内では道路網の整備によって、自動車の割合が増加してきたことを理解させる。 ②交通網や通信網の発達によって結び付きが強まることによる、利点や問題点を考察させる。
166 167	12 さまざまな地域区分 ◎いくつかの視点を基に日本を区分すると、どのような特色がみえてくるのだろうか。	(1) 日本はさまざまな視点から地域区分することができることや、地域区分の目的と利点を理解できる。 (2) 主題図を基に自ら地域区分を行い、そこから読み取れる日本の特色を説明できる。	①方言や食文化など、さまざまな視点から日本を区分することができることを理解させ、地域を区分することの目的や利点を理解させる。 ②さまざまな主題図を基に自ら地域区分を行わせ、そこから読み取れる日本の特色を説明させる。
第3章 日本の諸地域			
174 175	1 九州地方の自然環境 ◎九州地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 日本の南に位置する広大な九州地方は、海に囲まれ、火山が多い特色があることを理解できる。 (2) 九州地方の気候の特色と、梅雨や台風などに伴う自然災害が起こる理由を考察できる。	①火山が多く、リアス海岸やサンゴ礁も見られる九州地方の地形の特色を理解させる。 ②九州地方の気候の特色を、ほかの地域の都市の雨温図と比較しながら考察させる。 ③九州地方で発生しやすい自然災害について、雨温図の読み取りから考察させる。
176 177	2 火山と共に暮らす九州の人々の生活 ◎火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 火山と共に暮らす人々の工夫や、噴火への備えについて理解できる。 (2) 火山がもたらす産業や、人々の生活との関わりについて考察できる。	①九州地方の火山と温泉の分布の特色を地図から読み取らせる。 ①火山と共に暮らす人々の工夫や、噴火への備えの工夫について理解させる。 ②火山が人々の生活や産業にもたらす影響について考察させ、表現させる。
178 179	3 自然を生かした九州地方の農業 ◎火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして、九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。	(1) シラスの分布と特性を理解し、シラスでの農業の特色を理解することができる。 (2) 二毛作や促成栽培が盛んな地域の共通点を、自然環境に着目し、関連付けて考察・表現できる。	①九州南部の農業の特色を、シラスの分布とその特質との関わりから理解させる。 ①九州で盛んな二毛作や促成栽培について、九州の気候に着目させ理解させる。 ②九州南部と北部で盛んな農業は、どのような自然環境が背景にあるのか、関連付けて説明させる。
180 181	4 都市や産業の発展と自然環境 ◎アジアの国々に近いということが、都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。	(1) 福岡市が発展した背景を、大陸との距離や国内での位置に着目して理解できる。 (2) 北九州市の工業が発展した経緯と現在までの工業の発展について、アジアの国々との位置関係に着目して考察できる。	①福岡市と博多湾の位置を地図で確認させ、日本やアジアの都市との位置関係を理解させる。 ②八幡製鉄所と旧豊炭田の位置を地図で確認させ、八幡製鉄所が北九州に造られた理由を考察させる。 ③福岡県で観光業や工業が発展した理由を、アジアの国々との位置関係から説明させる。
182 183	5 南西諸島の自然環境と人々の生活や産業 ◎南西諸島の自然環境は、人々の生活・文化や歴史、産業とどのように関わっているのだろうか。	(1) 南西諸島で特色ある生活や産業がみられる背景を、自然環境の視点に着目し、考察できる。 (2) 沖縄独自の文化や沖縄が抱える課題について、位置や結び付きの視点に着目し、理解できる。	①南西諸島の島々の自然環境の特色を写真から読み取らせる。 ②沖縄らしさがみられる生活や産業を挙げさせ、自然環境との関わりから特色を説明させる。 ③沖縄が抱える課題について、位置や結び付き、経済の観点に着目させ、考察させる。
190 191	1 中国・四国地方の自然環境 ◎中国・四国地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 中国・四国地方が三つの地域に分けられる理由について、自然環境の面から考察できる。 (2) 三つの地域の気候の特色について、中国・四国地方の地形の特色から考察し、理解できる。	①中国・四国地方の気候に影響を与える山地の位置と名称を理解させる。 ②中国・四国地方の気候の特色を、雨温図で示された都市の位置から考察させ、山陰・瀬戸内・南四国に分けて説明させる。
192 193	2 交通網の整備と人々の生活の変化 ◎本州四国連絡橋や高速道路の開通は、人々の生活をどのように変化したのだろうか。	(1) 本州と四国を結ぶ交通網の変化を理解できる。 (2) 本州と四国を結ぶ三つのルートの開通によって、地域に起きた変化について考察できる。	①本州と四国を結ぶ本州四国連絡橋の三つのルートの位置と名称を理解させる。 ①本州四国連絡橋の開通による、島に暮らす人々の生活の変化を理解させる。 ②交通網の整備による、中国・四国地方と他地域との結び付きの変化について考察させ、表現させる。
194 195	3 瀬戸内海への海運と工業の発展 ◎瀬戸内海に面した地域では、船を使った輸送を利用して、どのように工業を発展させてきたのだろうか。	(1) 瀬戸内の臨海部に工業が発達した経緯を、自然環境や原料・製品輸送の面から理解できる。 (2) 瀬戸内工業地域で、新しい工業製品の開発や生産が進められている理由を考察できる。	①瀬戸内で工業が発達した経緯を、地形の特色や原料・製品の輸送に着目させ、理解させる。 ②瀬戸内工業地域で新しい工業製品が生産されている理由を、企業の海外進出や外国との競争などから多面的に考察させ、説明させる。
196 197	4 交通網を生かして発展する農業 ◎瀬戸内や南四国で生産される農産物は、どのようにして競争力を高め、市場を広げてきたのだろうか。	(1) 瀬戸内や南四国で盛んな農業の特色を理解できる。 (2) 瀬戸内や南四国では、農産物の市場をどのようにして拡大させてきたか考察できる。	①瀬戸内ではかんきつ類の栽培、南四国では野菜の促成栽培が盛んなことを理解させる。 ①南四国で促成栽培が盛んな理由を説明させる。 ②輸入品や産地間の競争に対応するため、品種改良を重ねたり輸送方法を工夫したりして市場の拡大を図ってきたことを考察させる。

198 199	5 人々を呼び寄せる地域の取り組み ◎過疎化や高齢化が進むなかで、交通網が整備されたことにより、地域にどのような変化が生じたのだろうか。	(1) 高齢化が進んでいる中国・四国地方の山間部や離島では、地域おこしの取り組みが行われていることを理解できる。 (2) 山陰では、観光業をどのように発展させているか説明できる。	①過疎化が進んでいる地域で行われている地域おこしの取り組みについて理解させる。 ②山陰では交通網の整備や地域の歴史・文化などを生かして、観光業を発展させていることを説明させる。
206 207	1 近畿地方の自然環境 ◎近畿地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 近畿地方は地形や気候の特色から、大きく三つの地域に分けられることを理解できる。 (2) 近畿地方では、中央部に平野や盆地が広がり、人口が集中していることを理解できる。	①近畿地方の人口分布の特色を地形との関わりから理解させる。 ②近畿地方の気候が北部・南部・中央部で異なる理由を、近畿地方の地形の特色から考察させる。
208 209	2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 ◎京阪神大都市圏の水源である琵琶湖とその周辺では、環境保全のために、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。	(1) 琵琶湖と淀川の水質保全が重要である理由を、人口や都市の視点と関連付けて考察できる。 (2) 琵琶湖の水を守る取り組みの歴史的な経緯を理解し、環境保全の大切さに気付くことができる。	①琵琶湖・淀川水系の給水区域内にある主な都市を理解させる。 ②琵琶湖の水質を保全するために、どのような取り組みが行われてきたのか説明させる。 ③琵琶湖と淀川の水質保全が重要である理由を、人口や都市の視点と関連付けて考察させる。
210 211	3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み ◎阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた環境問題に対して、どのように取り組んできたのだろうか。	(1) 阪神工業地帯の臨海部の工業地帯の変容を、環境対策の視点などから理解できる。 (2) 中小企業の高い技術を受け継いでいくための取り組みや、地域住民と共存していくための取り組みについて理解できる。	①阪神工業地帯の特色について、臨海部の変化を中心に理解させる。 ②阪神工業地帯では、環境問題に対してどのような取り組みを行ってきたのか説明させる。
212 213	4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 ◎京都と奈良では、歴史的景観を保全していくために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	(1) 京都や奈良には、歴史的な景観や文化財が多く残され、観光資源として生かされていることを理解できる。 (2) 京都や奈良の人々が、歴史的な景観や文化財の保全に取り組んでいる理由を考察できる。	①京都や奈良には、歴史的な景観や多くの文化財が残されていることを理解させる。 ②京都や奈良で、歴史的景観を保全する取り組みが行われている理由を考察させる。
214 215	5 環境に配慮した林業と漁業 ◎近畿地方で行われている林業・漁業では、観光を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。	(1) 近畿地方の林業や漁業では、環境保全のためにどのような取り組みを行っているか理解できる。 (2) 近畿地方の林業は、森林管理の技術を受け継ぐ若い後継者が少ないことが課題であることに気付き、どのようなことができるか考えることができる。	①紀伊山地の林業の特色を理解させ、資料から課題を読み取らせる。 ②森林や水産資源を保全・保護するための取り組みについて説明させる。 ③森林を保全したり、活用したりしていくために、どのようなことができるか考察させる。
222 223	1 中部地方の自然環境 ◎日本の中央部に位置する中部地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 中部地方の山脈や、そこから流れる河川がつくる地形の特色を理解できる。 (2) 中部地方は地形や気候の特色から、東海・中央高地・北陸の三つの地域に区分されることを理解できる。	①日本アルプスの位置と主な河川の名称を確認させ、河川によって形成された地形の特色を理解させる。 ②中部地方の気候の特色を、東海・中央高地・北陸に分けて説明させる。 ③中央高地の降水量が東海や北陸よりも少ない理由を考察させる。
224 225	2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 ◎名古屋を中心とする地域では、どのようにして自動車などの輸送機械工業が盛んになったのだろうか。	(1) 中京工業地帯の発展の経緯や、現在の特色について説明することができる。 (2) 名古屋大都市圏の広がりや、交通網による他地域とのつながりについて理解することができる。	①中京工業地帯で生産が盛んな工業製品を理解させる。 ②名古屋大都市圏の形成について、中京工業地帯の位置と広がりや周辺地域とのつながりから理解させる。 ③豊田市を中心とした地域で自動車工業が発展した理由を、産業の移り変わりや人々の工夫、周辺地域との結び付きに着目させ考察させる。
226 227	3 東海で発達するさまざまな産業 ◎東海の産業は、自然環境や交通網などの条件を生かして、どのように発達してきたのだろうか。	(1) 水が得にくい渥美半島で施設園芸農業が盛んになった理由を考察できる。 (2) 静岡県では豊富な水資源や森林資源を生かした工業や、その技術を基にして発展した工業が盛んであることを理解できる。	①東海で栽培が盛んな農作物を理解させ、施設園芸農業が発展した理由を理解させる。 ②静岡県で楽器の生産や製紙業が発展した背景を、豊富な水資源や森林資源とその加工技術との関わりから説明させる。
228 229	4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり ◎内陸で山あいの環境にある中央高地では、時代の変化とともに、どのような産業が発展したのだろうか。	(1) 中央高地の自然環境を生かした農業の変化と、交通網の発達を関連させて理解できる。 (2) 諏訪湖周辺の工業の変化について、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展と関連付けて説明できる。	①地図帳を活用させ、山梨県と長野県で生産が盛んな果物と野菜を調べさせる。 ②中央高地の産業の変化を、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展などと関連付けて説明させる。
230 231	5 雪を生かした北陸の産業 ◎雪が多い北陸では、どのような産業が発達してきたのだろうか。	(1) 北陸では、雪どけ水を稲作や火力発電などに活用することで産業を発展させてきたことを理解できる。 (2) 地場産業が発展した理由を、自然環境の特色や技術の発展などと関連付けて説明できる。	①北陸の農業と地場産業の特色を、自然環境との関わりに着目させ理解させる。 ②北陸で地場産業が発達した理由を、地域の歴史的な背景や冬期間の副業と内職の技術、水力発電の電力などに着目させ説明させる。
256 257	1 東北地方の自然環境 ◎南北に長い東北地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 地図や写真などから、東北地方の自然環境の特色を読み取り、理解できる。 (2) 地形の特色や緯度の関係から、東北地方の気候の特色を考察できる。	①東北地方は南北に長く、大きな河川の流域には広い盆地や平野が形成されていることを理解させる。 ②東北地方の南北と東西の気候の特色について、地形や緯度と関連付けて説明させる。
258 259	2 伝統行事と生活・文化の変化 ◎東北地方の伝統的な祭りや人々の生活は、どのように変化してきたのだろうか。	(1) 東北地方の祭りや行事の特色を、自然環境などと関連付けて考察できる。 (2) 交通網の整備による、東北地方の祭りや生活の移り変わりを理解できる。	①東北地方の伝統的な祭りや行事は、農業に由来するものが多いことを理解させる。 ②東北地方の伝統行事や人々の生活の変化を、交通網の整備の観点から説明させる。
260 261	3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力 ◎東北地方の人々は、冷涼な気候の下で農業を発展させるために、どのような工夫や努力を行ってきたのだろうか。	(1) 東北地方の冷涼な気候に対応した、稲作と畑作の工夫について理解できる。 (2) 東北地方で銘柄米の開発が行われてきた理由を、減反政策との関わりから考察できる。	①東北地方で米の生産が盛んな理由を、東北地方の自然環境と栽培の工夫から理解させる。 ②東北地方で銘柄米の開発が行われてきた理由を、日本の米の消費量の減少に伴う減反政策と産地間の競争から考察させる。
262 263	4 果樹栽培と水産業における人々の工夫や努力 ◎東北地方で盛んに行われている果樹栽培や水産業には、どのような工夫や努力がみられるのだろうか。	(1) 東北地方の果樹栽培や水産業の特色を理解できる。 (2) 東北地方で果樹栽培が盛んな理由を、自然環境と生産の工夫から考察できる。	①東北地方で栽培が盛んな果樹と、その主な生産地を理解させる。 ②東北地方で果樹栽培が盛んな理由を、水はけがよい地形や昼夜の寒暖差が大きい気候、新しい品種の開発といった生産の工夫などから考えさせる。
264 265	5 工業の発展と人々の生活の変化 ◎東北地方の工業は、交通網の整備や人々の生活の変化とともに、どのように発展してきたのだろうか。	(1) 交通網の整備に伴ってみられる、東北地方の工業や人々の生活の変化を理解できる。 (2) 東北地方では、再生可能エネルギーの導入が盛んであることを理解できる。	①東北地方で工業が盛んな都市の分布の特色を理解させる。 ②東北地方の伝統的工芸品の特色と変化を理解させ、説明させる。 ③東北地方では、再生可能エネルギーの導入が進められていることを理解させ、再生可能エネルギーの在り方について考察させる。
272 273	1 北海道地方の自然環境 ◎北海道では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 日本の北端に位置し、広大な面積をもつ北海道では、独特な地形や景観がみられることを理解できる。 (2) 亜寒帯に属する寒冷な北海道の気候について、地域による違いが生じる理由を考察できる。	①北海道の山脈や山地、平野の名称を理解させる。 ②北海道の気候の特色を地形や海流の特色を踏まえて理解させる。 ③北海道地方と九州地方の地形や気候を比べて、共通点と相違点を説明させる。

274 275	2 雪と共にある北海道の人々の生活 ◎北海道の人々は、雪をどのように克服したり、利用したりしているのだろうか。	(1) 北海道で行われている、雪に備える工夫や雪を生かした取り組みについて理解できる。 (2) 雪が人々の生活にどのような影響を与えているか考察し、説明できる。	①北海道の厳しい冬の寒さや雪に対する備えについて理解させる。 ①雪を観光資源やエネルギー源として活用している取り組みを理解させる。 ②雪が人々の生活にどのような影響を与えているか考察させ、説明させる。
276 277	3 厳しい自然環境を克服してきた稲作 ◎温暖な気候の下で行われる米作りが、寒冷な北海道で盛んに行われているのはなぜだろうか。	(1) 北海道で米の生産が盛んになった経緯を、開拓の歴史を踏まえて理解できる。 (2) 北海道で行われている土地改良や品種改良の取り組みの必要性について、自然環境との関わりから考察できる。	①石狩平野は、屯田兵などによる開拓や、泥炭地の土地改良によって日本有数の米どころになったことを理解させる。 ②泥炭地が広がっていたことや、味のよい米を開発する背景には、北海道の冷涼な気候が関わっていることを考察させる。
278 279	4 自然の恵みを生かす畑作や酪農、漁業 ◎北海道で、畑作や酪農、漁業が盛んになったのはなぜだろうか。	(1) 北海道で生産が盛んな農産物と漁獲量の多い水産物を理解できる。 (2) 北海道で畑作や酪農、漁業が盛んになった理由について、自然環境との関わりから考察し、説明できる。	①北海道の生産量が全国の上位を占める主な農産物と水産物を理解させる。 ②北海道で畑作や酪農、漁業が盛んになった理由を、冷涼な気候や沖合の海流を踏まえて考察させ、説明させる。
280 281	5 北国の自然を生かした観光業 ◎北海道では、観光業をどのように発展させてきたのだろうか。	(1) 北海道では、豊かな自然や新鮮な食べ物を生かした観光業が盛んであることを理解できる。 (2) 北海道の観光業の持続可能な発展に向けて必要なことについて考察できる。	①北海道には魅力的な観光地が多いことと、観光客が増えた理由について理解させる。 ②北海道を訪れる外国人観光客が増加している理由を、北海道の自然環境の特色から考察させる。 ③環境を保全しながら観光業を発展させるために必要なことについて考察させる。
238 239	1 関東地方の自然環境 ◎関東地方では、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。	(1) 関東地方の自然環境の特色を、関東地方に人口が集中する要因の一つという視点から理解できる。 (2) 東京大都市圏への人口集中が、都市の気候にどのような影響を与えているか考察できる。	①関東地方の自然環境の特色を理解させ、広い平野に多くの人口を抱えていることを統計資料などから読み取らせる。 ②人口が集中する背景の一つであるという視点から、関東地方の自然環境の特色を理解させる。 ③関東地方への人口集中が都市の気候にどのような影響を与えているか考察させ、説明させる。
240 241	2 多くの人々が集まる首都、東京 ◎首都であり、多くの人々が集まる東京には、どのような役割があるのだろうか。	(1) 人口が集中する東京は、官庁や大使館、大学、企業、金融機関などの諸機関が立地するほか、全国の交通網の起点になっていることなど、政治や経済の中心となっていることが理解できる。 (2) 千代田区や新宿区で昼夜間人口に違いが生じる理由について、さまざまな背景から考察できる。	①東京は、首都として官庁や大使館、大学、企業、金融機関などの諸機関が立地し、政治や経済の中心となっていることを理解させる。 ①東京は、全国各地と結び付く交通網の起点になっていることを理解させる。 ②東京は大使館や国際機関、外資系企業なども集中する世界都市としての役割があることを考察させ、表現させる。 ③千代田区や新宿区で昼夜間人口に違いが生じる理由について、さまざまな背景から考察させる。
242 243	3 東京大都市圏の過密問題とその対策 ◎拡大する東京大都市圏では、どのような課題が生じてきたのだろうか。	(1) 人口の集中と都市圏の拡大によって過密問題が発生してきたことを理解し、過密問題に対して取られてきた対策を理解することができる。 (2) 1970年代以降につくられたニュータウンが現在抱えている問題と、人口が増加しているニュータウンの取り組みを多面的に考察できる。	①人口の集中と都市圏の拡大によって過密問題が発生してきたことや、過密問題に対して取られてきた対策を理解させる。 ②多摩ニュータウンと港北ニュータウンを事例に、1970年代につくられたニュータウンが現在抱えている問題と、人口が増加しているニュータウンの取り組みを多面的に考察させる。
244 245	4 人口の集中と第3次産業の発達 ◎人口が集中する地域で発達する産業には、どのような特色があるのだろうか。	(1) 商業は人口が集中する地域や交通の便がよい地域に発達することを、分布図などを活用しながら理解できる。 (2) 東京大都市圏で情報サービス業や広告業が盛んな背景を多面的・多角的に考察できる。	①商業施設の立地や分布について、資料を活用しながら理解させる。 ①交通網の発達に伴う小売業の変化とそれに伴う地域の課題について理解させる。 ②東京大都市圏で情報サービス業や広告業が盛んな背景を多面的・多角的に考察させる。
246 247	5 臨海部から内陸部へ移りゆく工場 ◎京浜工業地帯や北関東工業地域の形成は、関東地方の人口の変化とどのように関係しているのだろうか。	(1) 工場の立地には、工業用地や原料の輸送、製品の輸送などの要因が関わっていることを、東京大都市圏に集中する出版業や石油化学工業を事例に理解できる。 (2) 郊外や内陸へ工場が移転してきた背景について、人口増加による都市圏の拡大と交通網の発達を関連付けて考察できる。	①出版業と石油化学工業がそれぞれどのような場所に立地するか理解させる。 ②工業の立地条件について、人口や物流の面から考察させる。 ③郊外や内陸へ工場が移転してきた背景について、人口増加による都市圏の拡大と交通網の発達を関連付けて考察させる。
248 249	6 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題 ◎東京大都市圏の周辺の農業地域や山間部は、人口の多い東京大都市圏と、どのように結び付いているのだろうか。	(1) 東京大都市圏からみた周辺の農業地域や山間部の役割について理解できる。 (2) 関東地方の山間部の特色と課題を理解し、高齢化と過疎の解決策について、事例を通して考察できる。	①東京大都市圏の周辺で農業が盛んな理由と、生産されている主な農産物について理解させる。 ①東京大都市圏からみた山間部の役割と山間部の課題について理解させる。 ②高齢化と過疎の解決に向けて、上野村の取り組みを通して、移住者を増やしたり交流人口を増やしたりする方法を考察させる。
第4部 地域の在り方			
286 287	1 課題を把握しよう ◎地域が抱えている課題は何だろうか。その課題を発見し、追究するテーマを設定しよう。	(1) 持続可能な地域の在り方を構想するために、地域の地理的な課題を把握し、その解決に向けた追究の問い(テーマ)を設定することができる。	①地域の在り方を考える際に追究する問いを、地理的な見方・考え方や注目する視点を生かしながら設定させる。 ③地域の在り方について、課題を主体的に追究、解決するための見通しをもつよう、支援する。
288 289	2 地域をとらえよう ◎地域の実態を把握するためには、どのような手順を進めるとよいのだろうか。	(1) 地図や統計などの諸資料を積極的に収集させたり、必要な情報をグラフや主題図にまとめさせたりするなど、収集した資料を適切に活用できる。	①課題解決に向けて計画を立てるとともに、地域の実態について諸資料からさまざまな情報を効果的に調べさせ、まとめる技能を身に付けさせる。 ③よりよい社会の実現を視野に、地域の特色や課題などの実態を把握させ、主体的に資料を収集するよう、支援する。
290 291	3 課題の要因を考察しよう ◎地域が抱える課題の要因を考察するには、どのようなことに着目するとよいのだろうか。	(1) 調査結果を分析したり、他地域の状況と比較したりすることを通して、地域の課題の要因を考察することができる。	①地域の課題の要因を、他地域の状況などとも比較・関連付けながら理解させる。 ②地域の課題の要因について、他地域の状況や地域内独自の要素に着目し、多面的・多角的に考察させる。
292 293	4 課題の解決に向けて構想しよう ◎課題の解決に向けて構想するには、どのような点に気をつけるとよいのだろうか。	(1) 地域の課題を解決するために必要な取り組みを考え、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想し、議論できる。	①地域の課題を解決するために必要で、持続可能性のある取り組みは何か、他地域の事例と比較・関連付けたり、すでに行われている取り組みを参考に整理させたり、議論させたりして見出させる。 ②地域の課題を解決するために必要な取り組みを多面的・多角的に考察させるとともに、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想させ、表現させる。 ③持続可能な社会を目指す一員であるという自覚をもたせ、持続可能な地域の在り方を主体的に追究・解決するよう、支援する。
294 295	5 課題の成果を発信しよう ◎構想した成果を分かりやすく伝えるためには、どのようにするとよいのだろうか。	(1) 構想の成果を分かりやすく説得力ある伝え方でまとめ、発表会や提言などの形で発信することができる。	①ほかの生徒の発表などを通して、地域の実態におけるさまざまな側面や、それに対する課題解決のための取り組みを理解させる。 ①ほかの生徒の発表から、よりよい発信の方法を読み取らせるとともに、プレゼンテーションソフトを活用した発表の仕方などについても理解させる。 ③「地域の在り方」の学習について、粘り強く考察・構想し、学習の見通しを基に、自ら工夫・調整しながら主体的に学習に取り組むことができたかを振り返るよう、支援する。